

令和7年度 県立太田第一高等学校自己評価表【全日制】

目指す学校像		グローバルな課題の解決に挑む力、持続可能な社会づくりに貢献できる力を育む学校		
三つの方針		具体的目標		
「三つの方針」（スクール・ポリシー）	「育成を目指す資質・能力に関する方針」（グラデュエーション・ポリシー）	(1)自ら課題を発見し、協働しながら創造的に解決できる力の育成 (2)主体的に学び続ける資質・能力の育成 (3)多様性を受容し、グローバルな視野で思考・判断・表現する力の育成		
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」（カリキュラム・ポリシー）	(1)探究を軸とした創造的な学びの環境を整備 (2)主体的に社会参画できる環境の整備 (3)多様な学びが選択できる教育課程の編成		
	「入学者の受入れに関する方針」（アドミッション・ポリシー）	(1)挑戦する心と柔軟性を持つ生徒 (2)主体的に学びに向かう意欲を持つ生徒		
昨年度の成果と課題		重点項目	重点目標	達成状況
・令和6年度の国公立大現役合格者数は20名、難関大学合格者数は1名だった。国公立大現役合格者を増加させるためには、総合型選抜や学校推薦型選抜での合格者数を増やす必要がある。そのために、個別最適で「主体的・対話的で深い学び」が実践できるよう、授業改善を推進する必要がある。 ・探究活動においては、探究協議会を中心に、地域や関係機関との連携を深化させ、総合的な探究の時間を軸に、各種コンテストへの参加等をとおして、探究活動を更に推進する必要がある。 ・生徒主体で実施する行事は増えつつある。また市議会との交流や市内の各種団体との協力による地域貢献も見られた。今後は生徒の積極性を更に向上させ、主体的に活動する生徒の裾野を広げる必要がある。 ・超過勤務45時間を超える教員の割合は月平均9.7%だった。効果的な教育活動を行うための授業の準備にかかる時間を短くするなど、教職員一人一人の意識改革を進める必要がある。		「主体的・対話的で深い学び」の授業実践	①国公立大学合格者数40人うち難関大学合格者数1人 ②「授業目標に向け、協働するなどして知識の習得を図った。」と感じる生徒の割合90%以上	B
		探究を軸とした学びの推進	③学校推薦型選抜、総合型選抜での国公立大学合格者数14人 ④「授業等で自ら課題を見つけ解決している」と感じる生徒の割合90%以上 ⑤ドリームパス等へのコンテストに5組以上参加 ⑥全国規模のイノベーションコンテストに1組以上が応募	A
		シティズンシップ教育の充実	⑦「主体的に行事に参画した」と感じる生徒の割合70%以上 ⑧「行事活動を通して課題を発見した」と感じる生徒の割合60%以上 ⑨「発見した課題を協働して解決した」と感じる生徒の割合50%以上 ⑩「総合的な探究の時間」において、地域の課題解決の探究に取り組んだ探究チームの数30チーム以上	A
		ダイバーシティ教育の充実	⑪国際開発・協力への視野を広げる「国際リーダーシップ研修」の実施 ⑫主体的に社会の発展や改革する力を養う「国際エンパワーメント研修」の実施 ⑬積極的な留学生の受け入れ	A
		教職員の在校時間の顕在化と業務の効率化	⑭授業やその準備にICTを効果的に活用するなどして業務を効率化し、超過勤務時間45時間を超える教諭を縮減する ⑮分掌業務等の校務にICTを効果的に活用するなどして業務を効率化し、超過勤務時間45時間を超える教諭を縮減する ⑯校務分掌の業務の明確化と精選	B

別紙様式2 (高)

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
教科指導 (共通)		1 「主体的・対話的で深い学び」の授業実践	(1)授業目標に向け、協働させるなどして知識の習得を図る	B	B	・学校評価アンケート(生徒)では、肯定的評価が減少したので改善が必要である。
		2 探究を軸にした学びの推進	(2)授業等で自ら課題を見つけ解決し発表する機会を設ける	B		
教科	国語	1 主体的に読み、それをもとに表現する力の育成を図る。	(1)小テスト等を利用して基礎的な言語事項や文法・句法の理解度を把握し、習熟度に沿った対応を心がける。	A	A	・小テストや課題提示については、個別最適な対応をより心がける。 ・高校3年間を通した系統的な指導計画作成を進め、評価と指導の一体化の観点からの観点別評価についてのさらなる研究・研修を実施する。
			(2)ICTを活用した授業展開をはかりながら、学習意欲を喚起し、対話的で分かりやすい授業の実践に努め、学習内容の定着に努める。	A		
			(3)探究的な視点を取り入れた授業実践を、年間を通して展開し、授業改善を推進する。	A		
		2 家庭学習の習慣化に努める。	(4)自己管理能力を高めるため家庭学習教材等を準備するなどし、家庭学習の習慣をつけさせる。	B		
			(5)全員が授業公開し、新学習指導要領を踏まえた指導力の向上、主体的・対話的で深い学びの観点から、ICTも適宜活用した授業内容・方法等について研究と修養をする。	A		
		3 読解力・表現力向上を目指し、授業の改善に努める。	(6)「評価と指導の一体化」の視点で1年次より順次、年間指導計画を作成、実施する。	B		
			(7)各種研修会に積極的に参加し、教科会で発表するとともに自己研鑽に努める。	B		
	地歴・公民	1 進路実現のために必要な基礎学力の向上を図るとともに思考力・判断力・表現力を養う。	(1)単元ごとに、学習した知識とともに思考・判断・表現を問う学習活動を実施する。	B	B	・生徒による主体的な学びの場面の設定 ・現代社会の諸課題やへの関心を高めるための、外部機関との連携 ・教科横断的な学びを実現する授業計画
		2 日本と世界の歴史や地理に関する理解を深め、国際化にも対応できる授業実践に努める。	(2)ICTを効果的に活用し、日本と世界の歴史や地理について多面的・多角的にとらえさせ、多様性を受容し、グローバルな視野で思考・判断・表現することができる力の習得を目指す活動を展開する。	A		
		3 現代の諸課題について問題意識をもたせ、自ら課題解決に向かう公民としての資質を養う。	(3)多様なメディアを主体的に活用し、社会の諸課題についての関心を高め、課題解決に向けた話し合い活動等を行う。	B		
	数学	1 基礎学力の向上を図り、生徒の主体的で対話的な深い学びを支援する	(1)単元テスト等を利用して学習の理解度を各自で把握させることで、生徒が自らの学習を調整しながら取り組めるよう支援をする。	A	B	・文理混合クラスへの対応や協働的な学びの研究 ・ICTの効果の研究 ・放課後に質問対応の時間確保 ・参観機会や参加人数の確保
			(2)少人数指導によるきめ細やかな指導を行い、対話的・協働的な学びの場を設定し、深い学びを実現する。	B		
			(3)課外活動等を活用し、より深く学びたい生徒に対して学習を深化できるように支援する。	B		
			(4)授業や課外活動の中で、ICTを効果的に活用し、生徒の学習プロセスを最適化することで生徒の学習意欲と理解を深める。	B		
		2 学習習慣の定着に努める	(5)課題を定期的に点検し、生徒の進路希望実現に向けて望ましい学習習慣を身に付けさせ	B		

別紙様式 2 (高)

			る。			
		3 授業内容の研究・改善を図る	(6)担当者全員がお互いに授業を公開して見学し合い、授業内容・指導方法等について教科内で研究協議する。	B		
	理科	1 確かな学力の定着	(1)学習意欲を喚起するような対話的な授業の実践に努め、生徒一人一人に寄り添う支援を行う	B	B	・質問しやすい環境づくりと個別最適な授業の実施 ・科学と生活のつながりを意識した思考力の育成 ・習慣的かつ前向きに取り組める課題作成 ・校内外の科学関連情報の共有
			(2)実験・観察などを通して自然の事物・現象に対する関心や探究心を高め、主体的に学ぶ態度を育成する	B		
		2 学習習慣の確立	(3)生徒の実態に応じた課題を設定し、継続的な学習の習慣づけを支援する	B		
		3 深い学びを実現する工夫	(4)外部の人的・物的資源・インターネット利用等を通して、主体的に探究する機会を設け、深い学びへつなげる	B		
	保健体育	1 運動技能を高め、主体的・対話的で深い学び方や更なる探究心を育成する。	(1)基本的な生活習慣を身につけ、体力の向上ならびに、各種の運動技能を高めさせる。	A	B	・生徒一人ひとりの体力差や技能差に応じた指導法をさらに工夫し、主体的に取り組める授業づくりを推進する。 ・評価基準を明確にし、生徒が目標を理解して取り組める授業展開を目指す。
			(2)ICTを適宜活用するなどし各種の運動の特性や魅力に触れ、主体的に健康の保持増進や回復を目指す。	B		
		2 保健の知識を身に付けさせ、日常生活に生かせるようにする。	(3)健康・安全について理解させ、生涯を通じて健康を管理・改善できるようにする。	B		
			(4)自ら課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ態度を身につける。	B		
	芸術	1 表現、鑑賞能力の向上	(1)個別指導を充実させ、個に応じた表現能力の育成に努める	A	B	・ICT機器を利用して鑑賞活動を効果的にできるようにしていきたい。 ・協働的・対話的な活動を通して、思考力・判断力を深める。
			(2)鑑賞能力の育成を目指して、鑑賞のグループワークや作品評価の場面を実践する	B		
		2 探究を軸にした学び	(3)生徒が自ら課題を見つけ解決する探究的活動を取り入れる	A		
			(4)学校推薦型選抜、総合型選抜での国公立大学合格者の育成をめざす	C		
		3 主体的・対話的な授業改善	(5)ICT機器を活用した主体的・対話的で深い学びにつながる芸術の授業実践	B		
			(6)他者との意見交換を取り入れ、思考力・判断力を深める	B		
	英語	1 基礎学力の定着、実践力の向上を図り、進路希望の実現に努める。	(1)到達目標を意識した指導を行い、内容の定着および応用力の育成を図り、評価を行う。	B	B	・相互授業参観の時間を増やし、多様な生徒への指導方法を引き続き研修していく ・プレゼンテーション
			(2)少人数授業、習熟度別によるきめ細かな指導を行い、その成果と課題をふまえ、指導方法の改善策を講じる。	B		
			(3)学力向上につながる小テストや課題等を工夫し、自主的に学習に取り組む学習習慣と態度を身につける。	B		

別紙様式2（高）

		2 探究的な学びを通して主体的に社会参画する態度を涵養する。	(4)各種コンテストや英語研修などに積極的に参加し、異文化理解を深め、深い学びと実践力を高める。	B		等のパフォーマンス活動を増やし、生徒の自主的主体的な学習習慣の確立を目指す
		3 主体的・対話的で深い学びを実現する授業の改善を推進する。	(5)A L TとのT e a m-T e a c h i n gを効果的に展開し、生徒の能動的な活動を促す場面の設定を行う。	B		
			(6)教材、指導法について研究を深め、「読む、書く、話す、聞く」の4技能5領域をバランスよく育成する。＊I C T機器の活用、ディベート的要素を取り入れた言語活動、学習クラウドサービスの活用	B		
			(7)各種研修会に積極的な参加や、相互授業参観の実施で、指導力の改善に向けた自己研鑽に努める。	B		
			(8)表現力を高めるパフォーマンステストを効果的にを行い、観点別評価の研究を深める。	B		
			(9)英語外部検定試験を含めた大学の新入試制度への対応を深める。＊実用英語検定試験準会場実施、G T E C 1・2年次生悉皆受験	A		
	家庭	1 基礎的・基本的な知識や技術の定着	(1)授業の目標を明示し、一人ひとりの学習状況に応じた指導をする。	B	B	・よりよい実技指導を研究する。 ・実技での作品評価について工夫する。 ・HPは夏季課題とし、I C Tでの発表会も継続する。 ・小テスト等でI C Tを活用する。
		2 課題解決能力および実践的な態度の育成	(2)小テストや課題等を工夫し、適切に実施する。	C		
			(3)ホームプロジェクト等において、身近な生活の中に課題を見つけ、主体的に解決する方法を考え、実践する。	A		
			(4)課題に対する自分の意見を文章等で表現させたり、他者と意見交換をしたりすることで思考力・判断力・表現力を向上させる。	A		
			(5)I C T機器等を活用し、学習への興味・関心を高める。	B		
	情報	1 情報がわかる喜びを実感する授業への改善に努める。	(1)C h r o m e B o o kを用いた授業を研究し、生徒が自ら学ぶ姿勢を定着させる。	B	B	・今年度同様に進めた い。
			(2)各研修会に積極的に参加し、自己研鑽に努める。	B		
教務		1 学習指導要領を踏まえた特色ある教育課程の編成と運営を図る。	(1)教育目標の実現を目指し、多様な学びを支援する教育課程の計画的な策定に努める。	A	B	・評価方法等を共有・協議する機会を設け、授業改善方策の研究につなげる。
			(2)学習成績評価の方法についての研究を継続する。	B		
		2 学びの保障と多様な学びの支援の実現を図る。	(3)学習効果を高めるため、授業改善に向けたI C Tの有効活用について研究する。	B		
			(4)多様な学習ニーズに対応した学びの実現に向け、校内規定の見直しを図る。	B		
			(5)グローバルな視野を持ち、多様性を受入れるダイバーシティ教育を推進する。	B		
			(6)学校公開や学校説明会の機会をさらに充実させ、中学校・地域への広報活動に努める。	B		
			(7)学校案内（スクールガイド）・ポスター・学校HP・インターネット等を活用し本校の教育活動を広く発信し理解を得ることで、教育活動の活性化につなげる。	B		
渉外		1 学びの環境の整備	(1)高教研への登録者の増加や、P T A会員名簿の作成に努める	A	A	・スカラネット入力 の事前指導の徹底と 効率的な周知
			(2)奨学金について、保護者・生徒に周知し、円滑な手続きに努める	A		
		2 P T A活動の充実	(3)P T A各行事（総会・年次P T A・講演会・支部懇談会）等の出席率向上を図る	B	B	

別紙様式2 (高)

		(4) P T A会報を発行し、会員相互の情報交換と研修に努める	A		・学校から保護者へのご案内を迅速に行い、出席率の向上を図る
		(5) P T A研修旅行を実施し、大学見学等の研修を行い、保護者との親睦を深める	A		
		(6) P T Aの生徒指導関連行事を実施し、生徒の安全な学校生活を支援する	B		
探究推進	1 探究活動の充実と外部への発信	(1) 中高6年間の探究的な学びの全体計画を作成し、発達段階に応じた指導に活かす	B	B	・探究サポートのため、教員間の共有の時間を確保する。 ・特別なスキルを持つ教員や、保護者などから協力を得る。 ・スクールプロジェクトとして継続探究を推進し、地域の課題解決力・意識を高める。 ・生徒の主体性を尊重して探究を進めるには時間がかかるが、活動時間の確保が難しい。
		(2) 探究発表会の生徒による運営などをおして、主体的に課題を解決する力を育成する	B		
		(3) 各種探究コンテストへの参加を奨励し、その活動や成果を積極的に発信する	B		
	2 主体的な学びの体制の充実	(4) 実践共有や研修で教員の研鑽を深め、探究の伴走者として生徒の学びをサポートする	B	A	
		(5) 青龍アラカルト課外やD Xハイスクール関連の課外・イベントで、生徒の多様な学びのニーズに対応する	A		
		(6) 地域連携、高大連携、企業連携を促進し、社会とつながる探究活動を充実させて、課題解決の意識を高める	A		
		(7) 外部委員による探究推進協議会との連携や生徒の探究委員会の活性化により、探究環境を整える	B		
キャリア・サポート	【進学目標】 1 適切な進路指導の充実を図り、国公立大学合格者数50人うち難関大学合格者数2人 2 総合型選抜及び学校推薦型選抜の対策を早期に進め、学校推薦型選抜、総合型選抜での国公立大学合格者数16人	(1) 学校独自編集の進路資料を6月までに発刊し全生徒へ配布する	A	A	・N I E教材としての活用研究 ・茨城大学とのさらなる連携 ・大学模擬授業の再開 ・高度プログラムへの挑戦 ・2年次早期指導の研究 ・チューターの活用 ・今年度就職希望なし
		(2) 「すべての教室へ新聞を」運動による教室への新聞の配置を毎日行う	B		
		(3) 学校独自、または外部機関と連携による各種インターンシップを企画・実施する	A		
		(4) 年次ごとの企画により模擬試験・進学型課外・大学見学会を実施する	A		
		(5) 高校1・2年次向けの卒業生進路懇談会を実施する	B		
		(6) キャリア教育プログラムおよびキャリア講座をJ Aほか外部機関と連携して行う	A		
		(7) G o o g l eクラスルームを活用して進路情報のタイムリーな提供を行う	A		
		(8) キャリア面談を実施し、難関大学および総合型・推薦受験への早期の働きかけを行う	A		
【就職目標】 1 生徒の能力・適性に応じた就職指導の徹底を図ることで、就職率100%	(9) 適切な就職斡旋のため、昨年度より早期からのキャリア面談を実施する	A	B		
	(10) 事業所からの情報収集と、ネット求人票などによる適切な就職情報を生徒へ提示する	B			
	(11) 外部機関と連携し、3年次を中心とした放課後公務員講座を実施する	B			
	(12) ハローワークとの連携と、各種報告や会議を通じた情報収集を行う	B			
特別活動	1 生き生きとした高校生活の確立を図る。	(1) 生徒が主体となってH R活動や学校行事を行えるよう支援する。また行事を通して課題を発見し協働しながら解決できる力の育成を図る。	A	B	・係教員の適正配置 ・文化祭予算の見直し ・生徒会予算を適正設定 ・生徒会の意見の反映 ・生徒会選挙の市との連携 ・顧問の適正配置と部
	2 生徒会活動の活性化に努める。	(2) 生徒が主体性を発揮し、地域との連携を図りながら、生徒会を中心に学校行事の企画運営を行う。	A		
	3 部活動の充実と発展に努める。	(3) 部活動の活性化を促進するとともに、生徒の主体的活動に基づいた運営を支援する。	B		
	4 中高一貫教育校として活動の充実。	(4) 附属中学と各種行事をはじめとして委員会活動や部活動、生徒会活動を通じて連携を図り、中高一貫教育校としての活動を充実させる。	B		

別紙様式 2 (高)

					費・旅費の見直し ・中高間の交流や部活動の連携強化 ・魅力ある部活動運営の検討
ウェルネス	1 基本的生活習慣の確立	(1)貴重品の自己管理と教室の施錠・貴重品袋の活用を徹底する	B	B	・生徒支援に関して、教職員間での共通理解を深め、指導方針の統一を図る必要がある。 ・制服の着こなしに関する指導基準を明確にし、一貫した指導が行えるようにする必要がある。 ・アルバイトを希望する生徒が増加しており、学習時間の確保の面で懸念が生じている。
		(2)服装の指導については、全職員の共通理解のもと指導方針に一貫性を持たせ、職員の一一致協力による指導を行う	C		
		(3)携帯電話やスマートフォンのマナーを守らせ適切な使用を徹底させる	B		
		(4)情報モラルの向上に努め、トラブルに巻き込まれないように注意喚起する	B		
	2 交通安全指導の強化	(5)必要に応じPTA生徒指導委員の参加・指導を依頼する	A	B	
		(6)共通理解を図りながら、全職員で立哨指導を行う	B		
		(7)保険加入の確認も含め、4月当初に自転車・バイクの点検を行う	A		
	3 生徒の自発的活動の促進	(8)生活委員会を毎月開催し、校内風紀や環境の向上に生徒が主体的に関わり行動するよう促す	A	B	
		(9)交通講話やHR活動等とおして、生徒一人一人の自覚を促し、交通・公共マナーの向上に主体的に取り組むよう支援する	B		
	4 教育相談の充実	(10)担任、年次、スクールカウンセラー、保護者との連携を図りながら、生徒一人一人に寄り添った教育相談を行い、早期解決に導く	A	B	
		(11)職員、保護者等に対する支援、相談、情報提供を行う	B		
	5 生徒・教職員の心身の健康増進	(12)生徒が主体的に感染防止対策を講じることができる能力を育てる	B	A	
		(13)保健便り等を活用し、保健室の効果的な運営に努める	A		
		(14)性教育講演会等各種健康教育を実施し、健全な健康観を作る	A		
	6 環境の整備・美化	(15)清掃用具の管理に努め、全職員・全生徒による清掃を徹底し、衛生環境の改善を図る	B	B	
		(16)生徒の健康安全を重視し、学習環境の安全点検を行う	A		
	7 防災・安全管理の徹底	(17)災害の怖さや、防災の大切さを啓発する	A	A	
		(18)綿密な計画を立て生徒が安全な行動を取れるように指導する	A		
		(19)避難訓練の方法を工夫し適切に実施する	A		
1 年次	1 基本的生活習慣の確立	(1)生徒面談、教育相談、立哨指導、年次集会、校内巡視等による適切な生徒指導に努める	A	A	・時間への意識をより高められるよう、日頃の指導について年次で意識の共有を図る。 生徒がより自分事として課題や活動に取り組めるよう案内や提示の方法を工夫する。
		(2)学校生活全体とおして規範意識の醸成および他者と協働する態度の育成を図る	A		
		(3)生活の中での時間遵守と挨拶の励行を呼びかける	B		
	2 主体的な学習態度の育成 および基礎学力の向上	(4)自主学習用アプリを活用し、基礎学力の定着と授業外学習時間の充実を図る	B	B	
		(5)総合探究の時間を軸とし、各教科の学習内容に関して深く学ぶ姿勢と、物事を幅広い視点から捉える態度を養う	B		
		(6)課外や外部講座等を利用し、発展的学習に主体的に取り組む姿勢の育成を図る	A		
	3 進路目標の設定	(7)各教科の授業や特別活動を通じて知り得た自己の興味関心から進路選択について考えさ	B	B	

別紙様式 2 (高)

		せる			・生徒が進路について考えるために、外部と連携し進路講演会などの機会を増やす。 授業と行事の両方で、対話的な学びができるよう工夫を継続する。
		(8)進路行事をととして進路意識の啓発を図り、生徒面談で具体的目標を検討させる	B		
		(9)進路目標の実現にむけて、探究活動や授業・模試等をととして資質能力の向上を図る	B		
	4 高校生活の充実	(10)LHR等でライフスキル教育を実践し、自己理解と他者理解を深め、互いに認め合う経験を重ねる	A	A	
	(11)部活動や学校行事への積極的な参加を促し、対話的な学びを大切にしながら集団への寄与や一体感を体験させる	A			
2 年次	1 基本的生活習慣の確立	(1)生徒面談、教育相談、立哨指導、年次集会、校内巡視等による適切な指導に努める	A	A	・学力差を踏まえた課題設定や支援を行い、主体的に学習へ取り組める環境づくりを進める ・社会的規範の意義を理解させ、責任ある行動を取ろうとする態度の育成を図る ・自己の特性や課題を見つめ直す機会を通して自己理解を深め、将来の進路選択に向けた主体的な探究活動につなげる
		(2)学校生活全体をととした規範意識の醸成および健康維持・増進を図る	B		
		(3)生活の中での時間遵守と挨拶の励行を呼びかける	B		
	2 主体的・協力的に課題に取り組む態度の育成と基礎学力の向上	(4)学習時間調査や模試等による現状把握に基づき、自学の習慣化と学力向上を図る	A		
		(5)総合探究を含めた学習活動全般をととし、協働して創造的に解決する資質能力の育成を図る	A		
		(6)自他の個性を尊重しながら、多様な視点で思考・表現・判断する力の育成を図る	A		
	3 進路目標の明確化	(7)個別面談等をととして、個に応じた学習・進路指導を推進する	A		
		(8)進路ガイダンス・進路講演会・大学見学会・インターンシップその他の活動をととして、学問分野の情報収集・研究をさせる	A		
		(9)探究活動をととした資質能力の向上を図りつつ進路学習を進めて、生徒一人ひとりが自己理解を深め、進路選択への意識を高める	A		
	4 主体的な高校生活	(10)部活動や学校行事への積極的な参加を促し、集団への寄与や一体感を体験させる	A		
3 年次	1 基本的生活習慣の確立	(1)生徒面談、教育相談、立哨指導、年次集会、校内巡視等で適切な生徒指導に努める	B	B	・継続的指導 ・年次集会での生徒指導主事講話 ・一般受験保護者への入試説明会・生徒および教員へのCompass・マナビジョン講習（外部企業の積極的活用） ・課外参加率向上のための施策 ・スタサブなどの活用 ・校外ボランティア清掃
		(2)学校生活全体の中で、規範意識の醸成と健康の維持・増進を図る	B		
	2 主体的・自主的な学習態度の育成および難関大学を視野に入れた進路実現	(3)生徒自身が主体的に進路を選択し、目標に向かって努力する体制をつくる	B	B	
		(4)入試制度について関係各所と連携して研修に努め、生徒の進路実現に寄与する	B		
		(5)授業や課外への積極的・主体的な参加を支援し、入試に耐えうる学力の増進を図る	B		
		(6)年次や教科の枠を越えて、教員が個々の専門性や特性を生かした進路指導を推進する	B		
	3 高校生活の充実	(7)課外活動への積極的な参加を通して、思いやりの気持ちや連携意識の高揚に努める	B	B	
		(8)広い視野に立ち、地域社会から愛され、地域社会に貢献する人材を育成する	B		

※ 評価規準 A：大変よくできた(達成度 100～80%)
 B：よくできた(達成度 80～60%)
 C：普通(達成度 60～40%)
 D：あまりできなかった(達成度 40～20%)
 E：全くできなかった(達成度 20～0%)